

校内研修計画

山梨市立後屋敷小学校

1 学校課題

本校の実態として、以下のことがあげられる。

- ・自分の考えをまとめたり、表現したりすることに課題がある児童が比較的多い。
- ・課題解決の方法を自ら考えたり、必要な情報を探したりすることに課題がある。
- ・課題解決の見通しを持つことに課題がある。
- ・どの学級にも個別の支援を必要とする児童が複数名いる。

このような点から、児童一人一人が主体的・協働的に学習に取り組み、友だちと関わり合いながら、自らの考えや集団の考えを広げたり深めたりする「学び合い」を充実させていく。

2 研究主題

自ら考え、表現し、学び合う児童の育成
～授業の構造化と家庭学習の充実を通して～

3 主題設定の理由

本校では、昨年度から、「やまなしスタンダード」を意識した授業づくりと、「家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八ヶ条～」をもとにした家庭学習を推進・充実させる実践的な研究を行ってきた。授業づくりでは、授業改善のポイントを絞り、「どのクラスでも、どの先生もやっている授業スタイル」を意識し、研究授業や一人一実践に取り組んだ。家庭学習では、個人で目標をたて毎月カレンダーに学習の足跡を残し、保護者に八のつく日にチェックしてもらうことで連携を図ってきた。以下がその成果である。

- ①めあては青線で囲む、まとめは赤線で囲むことが定着し、「今日のめあては何か」と興味を示したり、高学年になるとまとめを自分たちの言葉で考えたりできるようになった。
- ②課題の提示→自力解決→交流→まとめの授業スタイルができてきた。自力解決の時間では、子どもたちが自分の考えをノートに書けるようになり、交流では、ペアや全体の場で考えを発表することで、多様な考えを引き出すことができた。
- ③自学ノート（後小ノート）の1冊目を学校で購入することで、みんなでやっているという意識が高まり取組に効果があった。（スクールワイド効果）
- ④学習メニューを提示し、カレンダーに記入したり、授業の終わりを家庭学習とリンクさせたりすることで、学習内容に広がりが見られた。
- ⑤毎月カレンダーに個人の目標を設定することで、計画的に取り組めるようになってきている。強化月間では、目標達成者にがんばり賞を渡すことで意欲づけにつながった。

ただ、授業スタイルは確立できたが、交流の場での学習には課題が残った。今年度は、何のために、何について、どのような話し合いをするのか明確にし、学び合う児童の育成について研究を行う。また、家庭学習では、まだまだ取組に個人差が見られることや、学習内容をもっと充実させる必要があると考え、今年度も、「家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八ヶ条～」をもとにした家庭学習を推進・充実させる実践的な研究を行う。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 児童の実態分析と指導法の改善

全国学力学習状況調査（6年）の結果分析から、本校児童の実態把握をし、授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

(2) 授業研究

授業研究による検証をする。

(3) 一人一実践の公開授業

一人一実践を公開し、授業改善と授業力の向上を図る。

(4) 理論研究

主題に関わる資料を持ちより、学習する。

(5) 特別支援教育および今日的教育課題関連の学習会

講師を招聘し、学習会を開き、特別支援に関する理解を深める。

(6) 学びの基礎となる学習環境づくり・朝の活動の取組

授業改善と家庭学習の2ブロックに分かれ、実践的に研究を進める。

(7) 教育課程環流報告

年間校内研修計画

研究主任 山宮 由紀

月 日	主な内容	担当者	学年	T・C要請
4. 1 0	研究の方向性・全体計画について			
1 7	校内研究の全体計画について			
5. 1 5	主題に関わった研究・ブロック研究			
6. 5	研究主題に関する学習会（講師招聘）			○
1 9	主題に関わった研究・ブロック研究			
7. 1 0	1学期の研究のまとめ・ブロック研究			
8. 2 1	教育課程環流報告・特別支援に関する学習会（講師招聘）			○
9. 4	主題に関わった研究・ブロック研究			
1 1	ブロック研究会			
1 0. 2	授業案全体検討			
9	ブロック研究			
1 7	「英語科」公開授業研究	高野・岩下	5年	
2 3	授業案全体検討			
3 0	ブロック研究			
1 1. 1 3	「国語科」研究授業	新谷	1年	○
1 2. 4	ブロック研究			
1 1	2学期の研究のまとめ			
1. 2 2	主題に関わった研究・ブロック研究			
2 9	一人一実践の全体報告会・紀要作成に向けて			
2. 2 6	来年度の方向性について			
3. 4	研究紀要作成			

